

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

プレコングレスワークショップ9	
企画名	医療人類学の知見をレンズに家庭医療の実践を深める
日時	2016年6月10日(金) 15:20～16:50
会場	第9会場 (台東区民会館 8階 第5会議室)
企画責任者	錦織宏 (京都大学教育推進センター)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>2017年度より始まる新専門医制度の節目に際して、総合診療医学・家庭医療学分野が学術的基盤を構築するための学際的な連携が更に求められている。家庭医・総合診療医の基礎学問には様々な分野がある中で、このワークショップでは、異文化理解およびそれを通じた自文化理解の深化を生業とする学問である医療人類学の専門家との事例討論の場を提供する。</p> <p>時には異文化とも言える患者を全人的に理解することが重視され、自己省察も求められる家庭医・総合診療医が、平時は議論をすることが少ない社会・文化的側面に焦点を当て、事例を討論する場を持つことで、家庭医・総合診療医と医療人類学者との間の学際的な連携、およびそれを通じた実践の深まりの可能性を模索する。</p>	
<p>【概要】</p> <p>家庭医の診療では生物医学的な問題を内科診断学的な臨床推論で解決していくだけでなく、心理・社会・文化的な問題を解決するアプローチも求められます。ただ前者が内科学や小児科学（さらにはその背景となる病理学などの基礎医学や医療疫学など社会医学）などをその基盤としているのに対し、後者の基盤となる学問（およびそれとの関連）はこれまであまりはっきりとはしていませんでした。本ワークショップではその一つとして医療人類学をとりあげ、家庭医の症例検討会に医療人類学者に加わってもらうことによって、家庭医療カンファをより「知的に面白く」することを試みます。具体的には、参加者は6～10名の小グループに分かれて、実際のケースをもとにした症例検討会（およびその討論）に参加してもらいます。医療人類学がこれまでに蓄積してきた知見をレンズにして、家庭医療の実践をより深みのある豊かなものにするのを試みます。</p>	